

寺
ごよみ

四月

一日 お講 下村
六日 うらやま日曜学校開校式

すなおに みおしえをききます
一つ 仏の子は——

かならず 約束を守ります
いつも 本当のことといいます
にこにこ 仕事をいたします

やさしい心を 忘れません
ワンパク坊主も新一年生もそろ
つてお寺へ集まろう！

一七日 お講 栗虫
一六日 お講 宮野山
一七日 仏舎利塔参拝・夜桜見物
一九日 聖蹟参拝日帰りバス旅行
二九日 花の初まいり

富山県内の親鸞聖人ゆかりの地
と明教院の生家などを訪ねます。
費用は五千円、申し込みは大至
急！ 十日までに寺まで。

二九日 合同おつとめ練習会
二九日 花の初まいり



雪ん子劇団の初舞台—富山市本願寺で満堂の子どもたちをわかれせた(3月25日)

寺報 善巧

発行

938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
宇奈月(07656)(5)-0055

花の初まいり

四月二十九日午前十時

☆当日おまいりバス運行
初参式 縁日
花まつり
お芝居

「赤尾の道宗、まつ
され候。一日のたしな
みには、朝つとめにか
かさじとたしなむべし。
一月のたしなみには、ちかきと
ろ御開山様の御座候ところへ参るべ
しとたしなめ。一年のたしなみに
は、御本寺へ参るべしと贈むべしと
云々。これを圓如様きこしめし及
ばれ、能申たるとおほせられ候」
御本寺とは、京都御本山のこと
です。年に一度とは行かぬまで
も、此の度の好機に挙って「だん

だんさん

—伝灯奉告法要を迎えて—

心光のそとにはあらじとおぼゆ
申すまでもなく、「だんさん」は、
外儀のとりなりは進も止もあれど、
たる当來の親友、羈旅の
よそほひには僧もあり俗
もあれど、本願のそだち同じく、
世の常の物見遊山ではあります
同じ本願のそだちの私達淨土真宗
門徒の有難い团体参拝であります。

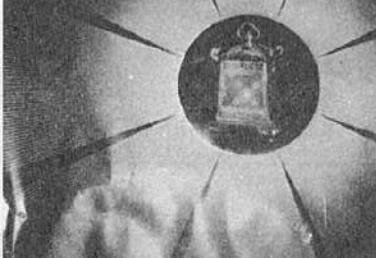
(住職 雪山 俊之)

四月一日から、京都西本願寺では伝灯奉告法要が勤修されます。山界隈は、日本全国からのだんさん（团体参拝）の善男善女で大賑わいを呈することと思います。此の私も、過去二回、団参の一員として門徒の皆様と御一緒に本山に詣った事があります。一回は、親鸞聖人七百回忌大遠忌で、もう一回は、御誕生八百年大法要でした。何れも、百五十名近くの参加者を得て、賑々しい参拝団でした。桂姿で縁儀に列した御門徒もあつて、今でも思い出話を懐しく語られる方によく御会いします。

「蓮如上人御一代記聞書」に次の二章があります。
「赤尾の道宗、まつされ候。一日のたしなみには、朝つとめにかかるべしとたしなむべし。
一月のたしなみには、ちかきところへ参るべしと贈むべしと云々。これを圓如様きこしめし及ばれ、能申たるとおほせられ候」御本寺とは、京都御本山のことです。年に一度とは行かぬまでも、此の度の好機に挙って「だん

さん」の一員に加わろうではありませんか。別して今回の法要は、即如ご門主が第二十四代の法統を繼承されたことを広く宗門の内外に呼びかけ仏祖の御前に伝灯奉告される大切な法要です。新門主の新しい御覚悟が、法要の端々にも現われ、午前の両堂でのお勤め、午後の聞法の集い、悦びの行事と、有意義な展開を見せる筈です。
春の声を聞くと、京都は、観光客の大群に押し寄せられて、観光地は、身動きならぬ雑沓を示すのが例年のことです。併し、今年の、西六條の賑わいは、法の集い、悦びのご縁である筈です。
明教院の「善光寺道中記」にも次のように書かれています。
「男女十有余人、世間の道連れならば諱しきはどの人数なれど、心あふたる当來の親友、羈旅のよそほひには僧もあり俗もあれど、本願のそだち同じく、外儀のとりなりは進も止もあれど、たる当來の親友、羈旅のよそほひには僧もあり俗もあれど、本願のそだち同じく、世の常の物見遊山ではあります同じ本願のそだちの私達淨土真宗門徒の有難い团体参拝であります。

第二十四代 即如門主 伝燈奉告法要



全国から三十六万人の念佛者が集まるといわれる伝燈奉告法要が、いよいよ四月から十月まで、大ロングランで勤められます。

あなたはお参りになりますか？ 「もちろん！」といわれる方、「参りたいが、体がどうも」といわれる方、「いそがしくて」といわれる方、そして「無関心」といわれる方……。そこで、まず「無関心」といわれる方に質問なんですが、なぜ、無関心なのでしょう。答えはいろいろあ

るでしょう。「そんな年じゃない」念佛者というが、家の宗教は净土真宗でも、自分は関係ない……。私の聞いた限りでは、この答えが一番多かったんです。正直だな、と私は思いました。従来の宗教のイメージは、およそこんなものであります。関わりがあるのは年寄だけ。宗教は家のものといった考え方です。でもうなんでしょうか。外国へ行くと必ず聞かれます。「あなたの宗教は何ですか？」答えられないのは日本人だけのようです。「家には仏壇があるが、私はべつに……」するとあちらの人はピクリギョウテンして「エッ、あなた、宗教がなくて、よく生きてゆけますねえ」。

まず第一は、旅行の楽しさであります。門徒の方々が一緒にになって、年に一度の本山参り、それに帰りにはまた楽しい観光地めぐりもあります。アラニカッタヤーというので、

宇奈月善巧寺 雪山隆弘

「念佛者といふが、家の宗教は淨土

なたは一体何を楽しみとして参拝されるのですか？

これについては昨年の總参拝や、毎年行なわれている団体参拝などでうかがった答えがありますので、それを紹介しておきましょう。大きく分けて三つの答えがあります。

「御影堂に坐わらせていただきて、あさのおつとめのご縁に合わせて、いただいて、習いたてのお正信偈を、声高らかに読ませていただいておりましたら、読んでいるのはわたしだけれど、聞こえてくるのは親鸞聖人のご化導でありました。お念仏させていただいておりましたら、声を出したのは私であり、御同朋御同行の方々ではありますたが、聞こえてくるのは、如來の呼び声であります。ありがたいことです。あの若い門主の肩にかかる如來のお慈悲も、もつたないがこの私の肩にかかるて下さる如來のお慈悲も、みんな、みんな同じだったんですね」。

第二は、客観的なよろこびです。親鸞聖人のご真影の前に坐らせていただいて、ありがたかった。それに國宝の飛雲閣やら書院の拝観、ご門主と親しく記念写真。そして法要のときなどは、いつも見られな生きてゆくための、本当の情報を満載しているのです。まず開けたこと、形式にとらわれない

同朋

第228号

編集兼発行人
鈴木教誠
発行所
本願寺派高岡教区
教務所
印刷所
寺井印刷



第三は一、二と趣を異にしています。つまり第一は快樂的なよろこびであり、第二は本山に参りながらも、客観的によろこんでいらっしゃるのだが、この第三は主観的なよろづつけ合い、話し合おうじゃないか、というのが今度の法要の一番のポイントなんですから。

さて次は参拝の日を楽しみにしていらっしゃるあなたに質問です。あなたは一体何を楽しみとして参拝されるのですか？

「御影堂に坐わらせていただきて、あさのおつとめのご縁に合わせて、いただいて、習いたてのお正信偈を、声高らかに読ませていただいておりましたら、読んでいるのはわたしだけれど、聞こえてくるのは親鸞聖人のご化導でありました。お念仏させていただいておりましたら、声を出したのは私であり、御同朋御同行の方々ではありますたが、聞こえてくるのは、如來の呼び声であります。ありがたいことです。あの若い門主の肩にかかる如來のお慈悲も、もつたないがこの私の肩にかかるて下さる如來のお慈悲も、みんな、みんな同じだったんですね」。

念仏者、Fさんがもらされたことばかりであります。しかし、私は私たち念佛者のよろこびとは、客観的よろこびではなく、この私がいまここに生かされて生きるよろこびを、心底から味わうことあります。まことに生かされて生きるよろこびを、心底から味わうことあります。さあ、一緒に今度の法要にお参りしようじやありませんか！

三法要特別会計54年度決算報告

<歳入>

① 53年度繰越金	1,000,000
② 54年度一般懇志	5,549,400
③ 雑収入(催物懇志等)	441,857
合 計	6,991,257

<歳出>

① 教化伝道費 (予 算 懇志)	150,000
② 花の初まいり	44,300
③ 落語会	44,000
④ 雪人子劇団	400,100
⑤ 一泊聞法	70,000
⑥ 教材費	10,000
⑦ 雑費	102,700
小計	35,000
(差引)	706,100
② 総務費 (予 算)	114,243
③ 予備費 (予 算)	500,000
① 寺報費	210,000
② 事務通信費	274,200
③ 会合費	30,000
④ 雑費	99,500
小計	613,700
(差引)	113,700
③ 予備費 (予 算)	5,899,400
① 借金返済	3,142,780
② 赤字補てん (教化務)	114,243
小計	113,700
差引残高	3,370,723
差引残高	2,528,677

三法要特別会計55年度予算

① 54年度繰越金	2,528,677
② 55年度一般懇志	6,000,000
③ 雑収入	71,323
合計	8,600,000
<歳出>	
① 教化費	200,000
② 総務費	600,000
③ 借金返済	2,200,000
④ 予備金	5,600,000
合計	8,600,000

本堂修繕開始



十四年度の決算報告を了承、五十五年度の予算案

三法要

- ・宗祖 700回忌
- ・御誕生 800年
- ・明教院 200回忌

春の理事会開く

3月20日

この日の理事会は、定期一時に開会、勤行のあと理事長(住職)のあいさつ。引きつづき尾沢監事から、「五十四年度の懇志収入は五三一口、七一六万一、五〇〇円。うち一六一万二二〇〇円が寺費。残り五五四万九、四〇〇円が五十四年度一般懇志として三法要会計に組み入れられ、それに五十三年度の繰越金等を合わせて、総額六九九万一一五七円の歳入となつた」との報告があり、別表のような決算が了承されました。

つづいて五十五年度予算の審議

特別寄進窓口を新設

この工事が終わると、内陣の莊嚴になるわけですが、金箔や巻障子の張り替え、法具類の新調等には、莫大な費用がかかりそうで、これについては理事会では、当初の六ヵ年計画内の予算と、内陣法名(特別懇志一口五万円)をフルに活用すると同時に、金箔の柱や前卓などは、「特別寄進」の窓口を設けて、広く門信徒の方々に協力を求めてゆくことが望ましいといふことになりました。

入り、予備金の使途について活発な意見が交わされました。

その結果、今年度から、いよいよ本堂の修復工事にとりかかるこ

とになり、まずは庫裡との接続工事、カベ、床、物入れ等を仕上げて、防火装置も設ける。これらの工事に関しては、建設委員会に一任することになりました。

せていたとき、三日は比叡山、角

善巧寺では、伝灯奉告法要の参

拝団を左記の通り募集しています。出発は六月一日朝で、この日のうちに納骨と、明教院僧鎧師のお墓まいをすませ、二日は午前・午後ともゆっくり法要のご勝縁に合わせていただき、三日は比叡山、角

ノ坊別院等をめぐって帰ります。

費用は三万五千円。申し込みのしめ切りは四月三十日。善巧寺はいつも申し込みが遅く、別院等にかなりの迷惑をかけていますので必ず三十日までにご連絡下さい。

法要参拝団募集中

4月30日



伝灯奉告法要参拝団募集中

富山教区伝灯奉告法要参事務所一

京都西本願寺では、昭和52年4月1日、満50年の永きにわたって、私達をお導き下さった光景ご門主(勝如上人)がご退任され、光真ご門主(即上人)が第24代の法統を繼承されました。

その法統が伝えられた旨を広く宗門の内外に呼びかけ仏祖の御前にされます伝灯奉告法要が来る昭和55年4月から10月まで、ご本山で賑々しく勤修されます。このご勝縁に一人でも多くの方々にご参拝頂きたく、教区におきましては以下の要項で団体参拝を計画し、団員の募集をいたしております。有縁の方々お誘い合せの上、是非ご参拝下さい。

なお、法要期間中、教区団参事務所の承認のない参拝団は参拝出来かねますのでご了承下さい。

黒西組

出發日・6月1日
帰着日・6月3日
会費・1人 35,000円 (2泊3日)
交通機関・富山地鉄観光バス

団参日程

第1日	教区内各地 - 富山IC - 小矢部サービスエリア - 彦根IC - 彦根城見学 - 彦根レストランハイウェー (昼食) - 名神高速 14:20~15:30 16:00~17:00	北陸高速 11:40~12:20 12:30~13:10
第2日	農朝参拝 (帰式典希望者受式) - 朝食 (各旅館) - 一本山集合 - 一團参拝 - 伝灯奉告法要 - 一團参退出 - 昼食 - 13:30~14:00 14:00~15:30 15:30~16:30 17:30~18:30	16:00~17:00 17:30~18:30
第3日	雄琴温泉 - 抑木アート - 奥北嶺 - 比叡山ドライブウェー - 横川中堂参拝 - 北白川口 - 平安神宮前 - 御所一角 / 坊別院参拝 - 東映映画村見学 - 嵐山とまり舟観光 (昼食) - 嵐山苑 - 京都南IC - 富山IC - 教区内各地	18:30~19:00 19:00~20:00

かけ回る僧

雪山 隆弘さん (39)



「寺は子ども、若者にとっても楽しいところでなくては」。週一回、子らに劇の指導をする(下新川郡笠置町、善巧寺で)

ている。この魅力ある宗教を人に知らせたい。そしていつしょに確かめたい。ところが、最近

おれの個性派

▶28◀

「開かれた寺にしていい——富山市で去年、寺、仏教のイメージテストをしたら、ほとんどの人は『葬式、法事の時に世話になるもの』。仏教でもこれです。仏法はすごいものを持っている。現代風にいえば、私が生きていくための情報が満載され

は寺へ人が来なくなった。それでは私が出かけてみよう」と考えました

年団、民間会社、教育委員会、PTA、老人会やロータリー、ライオズ、青年会議所など民間団体の講演に県内各地をかけ

月に二十回前後。婦人会、青学校で演劇に熱心な先生がいて、校内の劇団にはいってから劇の魅力に取りつかれた。民放

は寺へ人が来なくなった。それでは私が出かけてみよう」と考えました

東京へ。ここでは、政治から芸能までが取材対象。日本放送の「みんなで楽しむことをやってみた」が目的。隆弘さんが富山三年間担当。多くの人を会い、会へ相手との出会いもあった。

玲子夫人と出会い

富山へ来るきっかけになったのは玲子夫人(下新川郡宇奈月町浦山、善巧寺住職の娘)。玲弘さんが二十七歳の時、父の友人、富山大教授から見合いをすすめられた。調べてみると、善巧寺に二百年前、仏教史にも残る高僧がいて、その学派の弟子が百年後、隆弘さんの妻家、常見寺に靈巣をつくっている。善巧寺はいわば本家。両寺とも大乗り気。本人どうしは一回会っただけでOK。五ヶ月後に葬式。ただし、玲子さんは婿取りで、二人は将来、寺を継ぐことが条件。

見合いするまではマスクで生きる決心をし、寺へ入るなど考えもしなかったというから、色白美人で娘時代に地元の青年と」なのだから。とは住職の説教から落語家が話

の放送劇に入り、中学、高校時代はラジオドラマにしばしば生きるか」を身近な問題かわからやすくユーモラスに語る。演劇新聞記者と「生ぐさず、劇団「四季」と「青年俳優」の世界の体験も十分。それだけに一段と説得力があり、聴衆は寺へ人が来なくなった。それでは私が出かけてみよう」と考えた。「演劇で生活していくけるか」。結局はサンケイ新聞入社、社会部遊軍記者に。世界はガラリと変わった。それまではファイクションのドラマは、永六輔の発案で八年前、城東京へ。ここでは、政治から芸能までが取材対象。日本放送の「みんなで楽しむことをやってみた」が目的。隆弘さんが富山三年間担当。多くの人を会い、会へ相手との出会いもあった。

よう、という人が少なく、それ見ただとか、という人が多かった。目新しいことをしようとする。しかし堅苦しくてはいけない。ワイワイしながら樂しくやりたい。会の別名を「日本一うまい酒を飲む会」ともらつ。四年前に発足。電車運転士、工員、公務員、トラック運転手、農民ら十二人。一昨年、寺で落語会を開催。永さんが東京から落語家三人を連れて来てくれ。落語は寺が原点だという。落語は寺が原点だという。落語家三人を連れて来てくれ。落語は寺が原点だという。落語は寺が原点だという。

享月 三 水曜日 1980年(昭和55年)3月5日

三月十六日 日曜日 曇 彼岸を迎えて雪がどんどん消えて行く。庭の羅漢樹の根元の土がすっかり現われて来た。昨夜は、虫の鳴く声が聞かれたし、孫達が保育所の帰りに路の臺を摘んで来てくれた。

でもと、知り合いの大工に作らせ持つて来たとのこと。有難く頂く。谷口さんは、黒板も寄進して貢っている。

十一時半よりお講のおつとめ例の如し。春ともなれば、参詣の数も目立つて増えてくる感じ。

御親戚の方々十数名と共に御仏飯を頂く。息子さんに筑波大の学生あり。日本史專攻のこと。色々と話に花が咲く。帰院五時。

三月十七日 月曜日 曙 今日は一日法務無し。午前中書斎にて寺報原稿執筆。一面九百六十字、住職日記千字。書いていて字を忘れていたのに驚く。国語辞典を何回も引く。約二時間で書き上げる。省エネとは云うが、書斎は、県教育委員会勤務で、控の間

は倉仏者でないといいます。かいうのが右針のようですが、け持つてはダメです。でも、東京とのつながりは残つていままであります。これは、行つても人が集まらない、とよく相談を受けます。これは、行つてもあつても、どう生きるべきか、という指針がない。寺で育つたためか心の奥底に宗教がひつかついていたのでしょうか。東京でかつていていたのでしよう。東京で名『日本一おいしいお菓子を食べる会』である寺婦人部の会合に、お菓子を持ってわざわざ来てくれます』

——なんでも楽しくやる、とも、一人二百円程度。『酒の会』も最近、最高にうまいといいのではない。『お菓子の会』で高級菓子を取り寄せてくれます』

う雪中キヤベツ一つで五人が一院へ。待合室は患者で満員。此の調子では帰りの電車は二時になる。その旨、宅へ電話する。待合室のテレビで、議会の質疑応答を見る。

一週に一度此の病院に通院するようになつてからもう一年三ヶ月になる。病気の経過が良好なのか、病院で貰う薬の効果なのか、血圧も心電図の模様も、此処数カ月正常状態が続いている。来るたびに顔見知りの同病患者と身体の工合の報告をし合う。今日も血圧、百四十と七十。一週間分の薬を貰つて、一時四十分の電車で帰宅。就寝で、広い調理場も手狭な感じ。

例によって大根・人参の酢和え。要領よく仕上げられて行く。魚津の谷口氏より、手製の焼香盆を贈られる。他の寺でお説教の合間に廻されているのを見て「うちの寺」



去年、小学生を対象に「雪ん子劇団」が誕生。劇だけでなく、富山弁の劣等感をなくするための「ことばの教室」も兼ね、演劇はプロ級の隆弘さんなど、アマウンサーの経験がある玲子夫人も指導。上、下級生にわかれで月一回、寺で練習、三月の初公演を目指している。

華やかなマスコミの世界

を捨て、雪深い宇奈月へよく来る気になりましたね

「マスコミの仕事は確かに面白い。しかし、あふれる情報は

白い。しかし、あふれる情報は

白い。しかし、あふれる情報は

白い。しかし、あふれる情報は

白い。しかし、あふれる情報は

白い。しかし、あふれる情報は

白い。しかし、あふれる情報は

「開かれた寺」めざす

落語会開き 劇団も運営

いたくではありません。寺とは面白いところだと、足を運んでほしい。開かれた寺ではなく、気軽に訪ねられる開かれた寺にしたい

——これからの計画は

「いまどころ、目新しいことを始める予定はありません。

ある人が、やりたいことが百あつたら三つだけにしておけ、といいました。やろうかな、と思つて始め、ふと気がつくと三十年たつていて、というのが理想。常に風船をくぐらませ続けたい。とにかく、今日一日精一杯生きることが一番大切です」

寺
ごよみ

五月・六月

五月一日　お講　音沢

五六日　お講　音沢

三〇日　お講　東福・上野

一日　お講　音沢

三〇日　お講　音沢

六月　お講　音沢

雪ん子劇団大喝采



ことばの教室「雪ん子劇団」はさる三月二十五日、富山本願寺で初舞台を踏み、期待通りの順調なスタートを切りました。

この劇団は、表現力の豊かな子どもたちを育てようと、昨年秋から練習を始めていたもので、身体訓練、こと

初舞台は、富山本願寺で三月二十五日に行われた「こども大会」でした。この日は、富山県内のお寺のこども会のメンバーがなんと五百人も集まり、その前での公演とあつて、本番前はみんな少々アガリ気味。ところがいよいよ開幕となると、それぞれがこれまでの練習をはるかに上回わる名演技。観客から劇中の歌に合わせて大拍手が起ころうという素晴らしいおまけまでついて、みんな飛び上がってようこんだことでした。

「雪ん子劇団」はこのあと三月三十日に寺で初演、そして四月の花まつりに公演したあと、各地区の公民館などからの出演交渉にも応じます。お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、この子たちに、あたたかい拍手を送つてやつて下さい。

初演の富山で500人を魅了

御寄進

☆御焼香盆 魚津



の谷口小一郎さんが、

焼香盆を五基、御寄進下さいました。親戚の大工さんに作つてもらわれたとかで、長方形の木箱を三つ

にわけて、さい錢とお香入れ、香炉がならんでいます。「どこの寺でもあるのに、ウチの寺にないのは、さみしくて……」と谷口さん。黒

板やザルや飯台や、いろいろいつも有難うござります。

☆事務所本棚 柄沢の開沢茂さんが、事務所に、立派な本棚を。木工所で働くムスコさんが、寺の



一週間で、見事な台を立てましたら「よっしゃ」とガラスが割れて困つてしましたら「よっしゃ」と上げて「お代は、若の説教でたくさん」とは、ようこそ ようこそ。

四、五頁は「朝日新聞」を恥かしながらテレモゼ、そのまま転載しました。即如門主と志を同じくして「開かれた寺」をめざす若院の心意氣をお汲みとり下さい。

今回の寺報は、いつもと趣を異にして、転載が二つもあります。一つは二頁の「同朋」より。高岡教区の依頼で書いたものですが、再編集なしに載せました。一頁の住職のことばと合わせて、伝灯奉告法要の意義をご理解いただければ幸いです。

合掌

恒例の「花の初まいり」——今年は四月二十九日の祝日に開催することになりました。数万個のチューリップの花かざりで、はじめてお寺へおまいりをすることが待ちをお迎えするわけですが、そのため美しさは天下一品。この日のために、遠く、関西や東京からも見物にくる人があるほど。

とりわけ今年は、二十七日に花つみと花かざりをすませ、二十八日の夜は「前夜祭」と銘打つて、宇奈月夢を語る会からいたいたチヨウチンのご披露。そして、浦

行して遠方の門徒の方にも来ていました。だこうと計画中。田んぼのいそがしい時もありますが、ぜひぜひおさらい合わせの上、おまいり下さい。

六月一日——みなさん一緒に本山へ参りましょう!



伝 灯